

「校長室の窓から」

<https://dmzcms.hyogo-c.ed.jp/nishiwakikita-hs/>

令和8年(2026)7月17日(金)

第22号 発行: 隈元 優一

☎0795-22-5850/FAX: 0795-22-7359

痛みを抱える子どもたちに寄り添うということ～薬物乱用防止講演会「クスリとドリンクの話」～

7月17日(金)薬物乱用防止講演会を実施し、兵庫教育大学及び東布施野田クリニックでカウンセラーを務めておられる谷家優子先生をお招きしました。



▲ 演題「クスリとドリンクの話」

薬物乱用というと、覚醒剤や大麻など特別な世界の問題を想像しがちです。しかし今回のお話は、私たちの身近にある市販薬やエナジードリンク、お酒などから始まる依存について考える内容でした。

先生は、10代の依存の多くが身近な薬や飲料から始まる現状を紹介されました。辛い気持ちや不安を忘れたいという思いから、市販薬を過剰摂取(オーバードーズ)してしまう若者が増えているそうです。さらに、SNSを通じて孤独な子どもたちに

近づき、犯罪や搾取に巻き込む大人の存在も大きな問題となっています。

講演の中で特に心に残ったのは、「依存の背景には心の傷がある」というお話でした。先生がこれまで出会われた当事者の多くは、自分は悪くないのに、いじめや虐待、家庭環境での困難など、深い傷つき体験を抱えていたそうです。

私たちは問題行動を見ると、「なぜそんなことをしたのか」と考えがちです。しかし本当に大切なのは、「その子に何があったのだろう」「どれほど苦しかったのだろう」と考えることではないでしょうか。依存は決して意志の弱さだけで説明できるものではなく、苦しみから逃れたいという切実な思いの表れであることを学びました。



▲ 谷家優子氏

また、子どもたちを支えるためには、まず話を最後まで聴くこと、自分自身を認められる自己肯定感を育むことが大切であると教えていただきました。

講演の最後には、依存症を乗り越え、現在はプロのカメラマンとして活躍されている方の話が紹介されました。人との出会いや新たな楽しみとの出会いによって、人は何度でも立ち上がることができる。その力強いメッセージは、生徒たちの心にも深く刻まれたことと思います。



▲ 講演会の様子

誰にでも、頑張れない日があります。弱音を吐きたい日もあります。

そんなとき、一人で抱え込まないでください。

本校は、生徒一人ひとりが安全・安心して過ごせる「心の安全基地」でありたいと考えています。これからも生徒たちの小さな声に耳を傾け、誰もが「ここにいてよかった」と思える学校づくりに努めてまいります。